

平成27年度 学校法人 三幸学園 横浜医療秘書歯科助手専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 清 洋介

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 河洲 光史

1. 学校の教育目標

三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」に加え、H25年度より人材育成像についても目標を定め「相手のこうして欲しいを理解し考え動ける人材を育成する」という人材育成方針のもと当校では、【共働と継続】という部門目標を定めた。この目標は、クラス担任だけでなく関わる教科の教員含む全ての教員が共に生徒へ指導し、決めた目標を継続して行動できるようになるという意図がある。また、この目標については全教員が集まる全体会議(年3回開催)にて共有し、日々の授業でも意識的に取り組むよう心掛けている。また、社会人として可愛がられる人材を育てることも今年度の目標の1つとし、その行動の具体的なものとして自分から挨拶をする、相手の言動に反応するということを意識的に取り組んでいく。

2. 平成27年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 重点施策振り返り

・アクティブラーニングを意識した授業の実践

アクティブラーニングとは、授業において能動的に学習する習慣をつけさせるものである。年度始めにアクティブラーニングを取り入れるべく、各教科で目標を立て、職員室に目標の掲示をした。また、全体会議(年3回)内での研修を実施した。その他、教科会内での進捗状況の確認を行い振り返りも実施していた。しかし、実施においては教科によって差があった。今年度は全教科で最低限のルールを定めアクティブラーニングを取り入れていく。

・「成功の法則」の授業にて夢のスケッチブック(目標を具体的に設定し、実行計画を立てて日誌で振り返る授業)を活用したことで、教員が生徒の状況を把握したり、生徒も自分自身をこまめに振り返ることができた。今後は、担任教員も「成功の法則」の授業を見学する予定。

② 学校関係者評価委員会コメント

・授業の振り返りを実施するには、教員が振り返りをするだけでなく、生徒自身が振り返りを実施すべき。例えば、アクティブラーニングに関して、生徒が出来ていたのかを、生徒自身が振り返る機会をつくるなど。

・上手にアクティブラーニングできている生徒とそうでない生徒の差がある。今後はできていない生徒をいかにできるようにするかの工夫が必要だと思う。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

① 課題

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

教育理念や人材育成方針等について全教職員で共有は行っているが浸透にまで至っていないのが現状である。継続的に意識し続けることが課題と考える。

② 今後の改善方策

年4回の教科運営会議の実施、年3回の全体会議にて課題を共有し対策を考え、実施していく。

教務手帳・職員室に目標を掲示など、目標の可視化。

担任会議で話し合われた内容を全教員へ共有。

③ 特記事項

教育理念の浸透、協力体制を取るべく入学前に新入生向けのオリエンテーションの実施、また保護者向けの保護者説明会を開催。入学前後でのギャップを埋めることと、在校生による話も取り入れることにより等身大の目標を感じてもらうことが出来る。

また、三幸学園の原点「あきらめない教育」を小冊子化し、全教職員に配布し浸透している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・入学する前段階で、医療業界の現実を知ってもらう機会をつくることは良い。オープンキャンパスでは行事や学校生活の楽しさを伝えるだけでなく、卒業生講話等も入れ、どのような仕事ができるのか職業の話をするのが大切。

・生徒のことを考えた組織体制を毎年考えていくことが良い。

(2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
人事、給与に関する制度は整備されているか	4	3	2	1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

① 課題

毎年1年目が入社するため新人の教育育成が課題となっている。

また、全教職員の情報共有の徹底をし、お互いがコミュニケーションをとる環境をつくる。

② 今後の改善方策

新人教育については、OJT・TT指導を1・2年目に実施。

③ 特記事項

年3回の全体会議、年4回の教科運営会議、週1回程度で5年目以上のメンバー会議、週1回の担任会議等を実施している。また、定期的に業務改善を教員間で話す機会を設けている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・病院でも例えば看護師であれば、毎朝ミーティングで教育担当者が指導し、婦長レベルの者が3ヶ月に1回ほど面談を実施し手厚く指導している。教職員の育成や情報共有は非常に重要である。

・5年目以上のメンバー会議では情報共有だけでなく教育の課題についても話している。

(3). 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

① 課題

医療業界との産学連携、つながりという部分が課題と考えられる。約5000人の卒業生を送り出している歴史ある学校であるので卒業生をパイプ役に医療機関との連携を深めていきたい。

② 今後の改善方策

例年、7月に就職対象学年に対する学内の就職イベントで医療機関の方を招いて講義していただいたり、就職試験さながらの模擬面接官を担当いただいているが、今後は進級生に対しても医療機関の方を招くなどし、当校とのつながりという部分を強化していく。

挨拶が自然と出来るようになるため、学校内では挨拶部隊の生徒を配置している。

教員の病院実習の実施をしている。

ビジネスマナーの授業はより実践的な授業を実施していく。

③ 特記事項

2回目の全体会議では、外部の講師にお越しいただき、研修を実施している。

授業アンケート・担任アンケートを実施し、結果によって原因分析や対策を考えている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・授業アンケートや担任アンケートを見て、カリキュラムや組織の見直しを考えて行っているのはとても良い。

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	就職率の向上が図られているか	4	3	2
資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

① 課題

毎年、進級生クラスから退学者が出てしまう現状がある。また新入職員クラスから退学者が多く出てしまう傾向があるのが課題と考える。

② 今後の改善方策

新入職員クラスには担任指導者というベテラン教員が副担任という立場でクラスに入るよう配置。クラスのわずかな変化に気付ける環境を整えた。退学理由として多いのは精神的な病を抱えている生徒が多いため、早い段階での専門カウンセラーへのカウンセリングへの促しを担任より実施。

③ 特記事項

在校生に対して、何人かの卒業生に就職や実習の講話をしてもらっている。

卒業生の卒業後の把握については、同窓会プロジェクトというものが学園として発足。

・平成27年度就職率:99.2%(平成27年5月9日現在)

④ 学校関係者評価委員会コメント

・平成27年度就職率は100%となった。(平成28年6月)

・担任だけでなく、カウンセラーや認証心理士・保護者など様々な人の関わりが大事。

・教育や社会が進化して学びやすい環境が整ってきた。この環境への幸せに生徒が気づいて学んでいけると良い。

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2
学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

① 課題

保護者との連携は問題行動のある生徒に偏る傾向にある。

また、メンタルの弱い生徒が増加傾向にあり、症状は様々であるため、その生徒1人1人に対して適切なアドバイスを送ることが出来ているのか不明である。

② 今後の改善方策

問題行動のある生徒だけでなく、適切な時期を見て、定期的に保護者への連絡を実施。

メンタルの弱い生徒へのカウンセラーへの促しを早急に行う。また、生徒指導研修等、積極的に取り入れていく。

③ 特記事項

経済的な支援策として入学時に特待生制度を導入。合格者は学費の免除を受けられる。

日本学生支援機構による奨学金制度の適用。三幸学園学費応援制度という学園オリジナルの制度の設置。

就職に関しては、担任とエリア担当のダブルフォローを行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・入学希望者へ病院見学会を実施していることは良いことなので継続して実施した方が良い。

・カトリックという活動に生徒を協力させている。

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

特に2号館は老朽化に伴い、改築が必要と思われる。

各個人の防災に対する知識や意識の向上が必要。

② 今後の改善方策

防火管理者の人数を増やし、防火管理者より職員・生徒への防災に関する指導を実施。

③ 特記事項

防災訓練は年に1回実施している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・レセコンの授業は二号館のパソコンルームで実施している。

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 課題

未だ診療情報管理士の募集が芳しくない。

② 今後の改善方策

資料請求者への診療情報管理士の告知強化。WEBでの告知強化。

早い時期での診療情報管理士説明会を実施。

③ 特記事項

一般財団法人 神奈川県専修学校各種学校協会が定めた募集時期や内容に関して遵守している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・卒業生が卒業後にも学校に遊びに来たりすることは三幸学園の強みでもあり、それを活かすべき。例えば、卒業生の仕事での状況などをヒアリングし、募集活動に活かすなど。

・医師事務作業補助者の資格が取れるカリキュラムにした方が良いのではないかと。

(8). 財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

① 課題

更なる法令遵守の推進

② 今後の改善方策

会議や掲示物などを通じて、全ての教員に対して法令遵守をさらに徹底させる。

③ 特記事項

平成27年度自己評価結果より公開を開始

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1		
	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2 1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2 1

① 課題

ボランティア活動がまだ体系化されていない状況。

② 今後の改善方策

ボランティア活動をする生徒を増やし、様々なボランティア活動に参加したい。

③ 特記事項

地域貢献活動(ハロウィンイベント)開催。

ワールドポーターズ内の福祉施設にて生徒によるボランティア活動実施。

姉妹園キッズ大陸でのボランティア活動や実習を実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・地域の清掃活動はすぐに実施ができるので実施をするべきである。

・地域で力のある町内会長などに相談の上、今後ボランティア活動を実施していく。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

「相手のこうして欲しいを理解し、考え動ける人材」を育成することを目指す人材育成方針として、専門的な知識や技術だけでなく人間性を高める教育を目指して取り組んできた。豊かな人間性を高める教育として、挨拶やマナー指導、学校行事を通して、協調性や自主性を養う機会を設けている。各教科では資格・検定取得目標だけでなく、授業やアクティブラーニングについての目標を立てて取り組んだ。資格・検定合格率はほぼ目標通りの結果となった。授業の工夫等はより強化していきたい。就職希望者の就職決定率は100%が内定をいただけた。今後は更に早い段階での生徒自身の職業理解や目指す将来像を定められるよう、環境を整えていきたい。また、課外活動や地域貢献の取り組みを実践して、生徒自身の社会や地域との関わりの機会を増やし、地域社会に貢献する学校を目指したい。